

Q	環境品質・性能	配慮項目		重み係数		B+ランク		Aランク		Sランク		備考	
		中項目	大項目										
Q	Q-1 室内環境	1 音環境	1.1.1 室内騒音レベル 1.2.1 開口部遮音性能 1.2.2 界壁遮音性能 1.3 吸音	0.15	0.40	3	45dB<騒音レベル≤50dB	3	←	3	←		
						3	T-1	3	←	3	←		
						3	Dr-35(室間音圧レベル差の等級)	3	←	3	←		
						4	床・タイルカーペット、天井:岩綿吸音板による吸音	4	←	4	←		
						3	冬期DB22°C、夏期DB26°C	3	←	3	←		
		2 温熱環境	2.1.1 室温設定 2.1.3 外皮性能 2.1.4 ゾーン別制御性 2.2 湿度制御 2.3 空調方式	0.35	0.40	3	簡易エアフロー、庇	4	確実な断熱、吸熱ガラス+簡易エアフロー、庇	5	高断熱、Low-E複層+ライトシェルフ	4	ゾーン別の冷暖房の選択可能
						3	方位別ペリメータ・インテリア別の空調ゾーンニング	3	←	4	←		
						3	冬期40%、夏期50%	3	←	3	←		
						3	上下温度差や気流速度に配慮(標準的)	3	←	5	床吹出空調		
						2	昼光率1.0%以上	2	←	3	昼光率1.5%以上		
	3 光・視環境	3.1.1 昼光率 3.1.3 昼光利用設備 3.2.2 昼光制御 3.3.1 照度 3.4 照明制御	0.25	0.40	3	昼光利用設備がない	3	←	4	ライトシェルフ	4	庇・ブラインドによるグレア防止	
					3	ブラインドによるグレア防止	3	←	4	←			
					3	500 Lx≤照度<750Lx	4	750 Lx≤照度<1000Lx	4	←			
					3	4作業単位で制御可能	3	←	3	←			
					2	昼光率1.0%以上	2	←	3	昼光率1.5%以上			
	4 空気質環境	4.1.1 化学物質汚染 4.2.1 換気量 4.2.2 自然換気性能 4.2.3 取り入れ外気への配慮 4.3.1 CO ₂ の監視 4.3.2 喫煙の制御	0.25	0.40	3	建築基準法を満たしている	3	←	4	建築基準法対象以外も☆☆☆☆建材を70%以上利用	4	建築物衛生法を満足する換気量×1.2倍の外気可能	
					3	建築物衛生法を満足	3	←	4	建築物衛生法を満足する換気量×1.2倍の外気可能			
					3	自然換気口なし	3	←	4	自然換気有効開口面積が50cm ² /㎡以上			
					4	外気取入口の配慮、ショートサーキット防止(排気口との離隔)	4	←	4	←			
					4	巡回計測+管理マニュアルの整備	5	巡回計測+管理マニュアルの整備	5	中央からのCO ₂ 濃度監視			
Q-2 サービス性能	1 機能性	1.1.1 広さ・収納性 1.1.2 高度情報通信設備対応 1.1.3 バリアフリー計画 1.2.1 広さ感・景観 1.2.2 リフレッシュスペース 1.2.3 内装計画 1.3.1 維持管理に配慮した設計 1.3.2 維持管理用機能の確保	0.40	0.30	3	1人当たりの執務スペースが6㎡以上。	3	←	3	←			
					4	OAフロア、OA容量40VA/㎡以上	4	←	5	OAフロア、50VA/㎡以上、フレワイリング、テナント用EPS			
					3	バリアフリー新法の最低限のレベル	3	←	4	ハートビル法利用円滑化基準を満足			
					3	天井高2.5m以上、十分な窓の設置	3	←	4	天井高2.7m以上、十分な窓の設置			
					3	喫煙コーナーの設置	4	+喫煙コーナーと分離したリフレッシュスペース	5	+自動販売機等の設置			
	2 耐用性・信頼性	2.1.1 耐震性 2.1.2 免震・制振性能 2.2.1 躯体材料の耐用年数 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔 2.4.1 空調・換気設備の信頼性 2.4.2 給排水・衛生設備の信頼性 2.4.3 電気設備の信頼性 2.4.4 機械・配管支持方法 2.4.5 通信・情報設備の信頼性	0.312	0.30	3	色彩計画、インテリア計画へのある程度の配慮	5	色彩計画、インテリア計画への十分な配慮	5	←	4	標準以上の取り組み	
					3	標準的な取り組み	4	標準以上の取り組み	4	標準以上の取り組み			
					3	標準的な取り組み	4	標準以上の取り組み	4	標準以上の取り組み			
					3	建築基準法に対応	3	←	4	建築基準法+25%増の耐震性			
					3	免震・制振なし	3	←	3	←			
3 対応性・更新性	3.1.1 階高のゆとり 3.1.2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり 3.3.1 空調配管の更新性 3.3.2 給排水管の更新性 3.3.3 電気配線の更新性 3.3.4 通信配線の更新性 3.3.5 設備機器の更新性 3.3.6 バックアップスペース	0.288	0.30	3	階高3.5m以上	3	←	4	階高3.7m以上				
				3	標準	3	←	3	←				
				3	2900N/㎡以上	3	←	3	←				
				3	躯体を痛めることなく更新・修繕可能	3	←	3	←				
				3	仕上材を痛めることなく修繕可能	3	←	3	←				
Q-3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 地域性	0.30	0.30	2	屋上緑化(小規模) or 敷地緑化(小規模)	3	外構の緑化、地域の樹種に配慮	4	敷地緑化(中規模)+屋上緑化(大規模)				
				3	周辺環境に応じた建築物の工夫(取組小)	3	周辺環境に応じた建築物の工夫(取組小)	4	周辺環境に応じた建築物の工夫(取組大)				
				3	地域への空間提供(小規模)、防犯への配慮	3	←	4	+公開空地				
				2	高い場所からの排熱	3	外部通風への配慮、緑化、排熱に対する配慮	4	+敷地内緑化				
				3	階段3.5m以上	3	←	4	階高3.7m以上				
	LR-1 エネルギー	1 建物の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	0.40	0.40	3	ポイント法115点、PAL5%以上削減	4	ポイント法140点、PAL15%以上削減	5	ポイント法は不可、PAL35%以上削減	←	判定基準強化	
					3	自然エネルギー利用なし	3	←	3.5	昼光利用、自然換気(小規模)			
					3.5	エネルギー削減率10.3%	3.7	エネルギー削減率12.8%	4.4	エネルギー削減率24.5%	←	判定基準強化	
					3	各種エネルギーの年間消費量の把握	4	用途別のエネルギー消費の計測・記録	4	←			
					3	特別な対応なし	4	運用、維持、保全の基本方針の設定	4	←			
LR-2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水 1.2.1 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 雑排水再利用システム導入の有無	0.15	0.30	4	節水コマ、節水便器など	4	←	4	←			
					3	雨水利用なし	4	雨水利用	4	←			
					3	雑排水利用なし	3	←	3	←			
					2	取り組みなし	3	高強度コンクリートの利用(標準的)	3	←			
					3	なし	3	←	3	←			
	2 非再生性資源の削減	2.1 材料使用量の削減 2.2 既存建築躯体等の継続使用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	0.63	0.30	3	OAフロアにリサイクル建材を使用	4	OAフロア、外構タイルにリサイクル建材を使用	5	高炉セメントの活用	←	判定基準強化	
					3	持続可能な森林から産出された木材を不使用	3	持続可能な森林から産出された木材の利用	4	持続可能な森林から産出された木材を10%以上利用			
					2	特になし	4	OAフロアが再利用可能	4	←			
					4	接着剤、ワックス、防錆剤等に利用(標準)	5	+サッシシールのガスケット化	5	←			
					4	不活性ガス消火を用いている	4	←	4	←			
3 汚染物質含有材料の使用回避	3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2.1 消火剤(フロン・ハロンの回避) 3.2.2 断熱材(フロン・ハロンの回避) 3.2.3 冷媒(フロン・ハロンの回避)	0.22	0.30	2	HFCの発泡断熱材を利用(ODP=0.11)	3	ODP=0の発泡材	5	CO ₂ 発泡断熱材				
				3	HFCの冷媒を使用	3	←	3	←				
				3	法・条例の範囲	3	法・条例の範囲	3	法・条例の範囲				
				3	事前調査、低溫排熱、効果の検討	3	+詳細調査+シミュレーション	4	+省エネルギー+通風への配慮				
				3	指導による雨水流出抑制	3	←	3	←				
LR-3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮 2 地域環境	2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境悪化の改善 2.3.1 雨水排水負荷低減 2.3.2 汚水処理負荷抑制 2.3.3 交通負荷抑制 2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	0.333	0.30	3.3	ΔLCCO ₂ =8% ☆☆	3.4	ΔLCCO ₂ =12% ☆☆	3.8	ΔLCCO ₂ =22% ☆☆☆	←	判定基準強化	
					3	法・条例の範囲	3	法・条例の範囲	3	法・条例の範囲			
					3	事前調査、低溫排熱、効果の検討	3	+詳細調査+シミュレーション	4	+省エネルギー+通風への配慮			
					3	指導による雨水流出抑制	3	←	3	←			
					3	下水道基準に従う	3	←	3	←			
	3 周辺環境	3.1.1 騒音 3.1.2 振動 3.2.1 風害の抑制 3.2.3 日照障害の抑制 3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策 3.3.2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	0.333	0.30	3	違反	3	違反	3	違反			
					3	違反	3	違反	3	違反			
					3	標準的な対応	4	風害対策	4	←			
					3	違反	3	←	3	←			
					3	広告物照明に対する配慮	3	←	4	+光害対策ガイドラインの一部対応			

CASBEE-新築(簡易版)/2010

B⁺ランクの建物例

(SQ=2.9,SLR=3.1,BEE=1.0)

- 赤文字がレベル5
- 緑文字がレベル4
- 青文字がレベル3
- 紫文字がレベル2

©masaaki@kajima.com

■Q-1 室内環境

- ◆音環境
 - サッシ遮音性能(T-1)、内壁遮音性能(Dr-35)
 - 吸音 床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板
- ◆温熱環境
 - PALを満たす外皮性能
 - 窓システム:SC=0.5、U=4.0W/m²K程度、外壁:U=2.0W/m²K程度
 - 熱吸ガラス+簡易エアフロー程度
 - 外壁の断熱(ウレタンフォーム8mm相当)
 - ペリメータ方位別・インテリア別の空調ゾーニング
- ◆光・視環境
 - ブライต์による眩しさ防止
 - 設計照度600Lx
 - 中程度の照明点滅区分
- ◆空気質環境
 - 外気と排気のショートカット防止 (1)
 - CO₂の監視(巡回計測)
 - 喫煙コーナーによる分煙(最低限) (2)

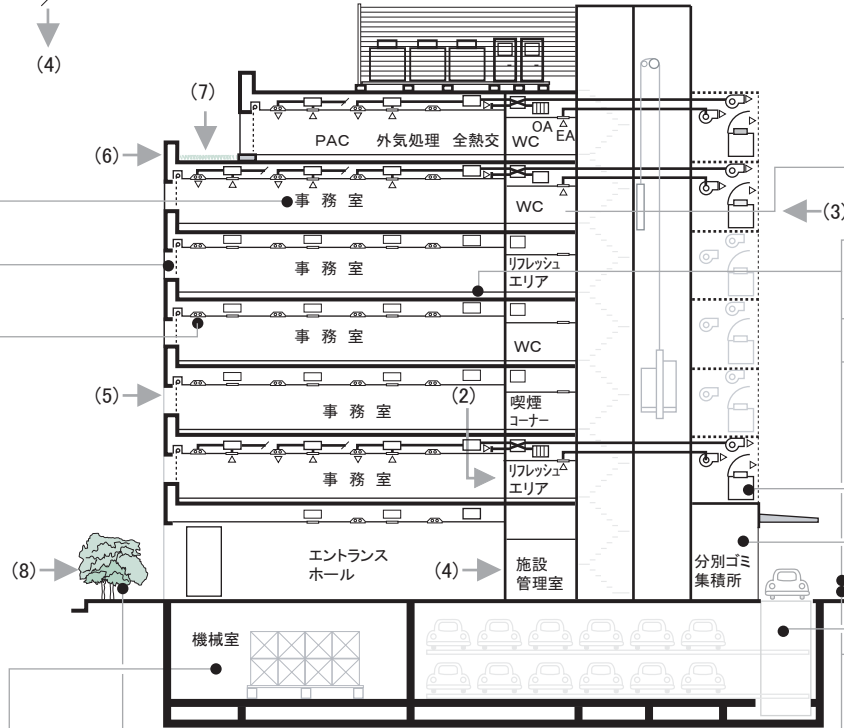
■Q-2 サービス性能

- ◆機能性
 - OA707設置、OA容量40VA/m²以上
 - 天井高 2.5m以上
 - 喫煙コーナー (2)
 - インテリア計画へのある程度の配慮
- ◆耐用性・信頼性
 - 合成樹脂吹付(アクリルリシン)
 - タイルカーペット、システム天井などによる保全性の向上
 - 衛生設備:節水 (3)
 - 電気設備:浸水対策
 - 通信・情報設備:通信手段の多様化、浸水対策
- ◆対応性・更新性
 - 階高:3.5m以上
 - 電気設備、通信・情報設備
 - ES・OA707・システム天井で容易に対応可能

■LR-1 エネルギー

- ◆建物の熱負荷抑制
 - 外皮性能:PAL-5%
- ◆設備システムの高効率化
 - エネルギー削減率10.3%
 - スコア=3.5
- ◆効率的運用
 - エネルギー消費総量の把握

- ◇空調設備の省エネルギー
- ◇換気設備の省エネルギー
- ◇照明設備の省エネルギー
- ◇給湯設備の省エネルギー
- ◇昇降機設備の省エネルギー
- ・高効率機器の採用・全熱交換器・冷媒管長さの最小化
- ・高効率モーターの利用・各階個別換気・温度制御
- ・高効率照明器具(Hf型蛍光灯)・昼光利用制御・適正照度補正制御
- ・個別給湯方式・適切な断熱
- ・VVVF・電力回生制御



■LR-2 資源・マテリアル

- ◆水資源保護
 - 節水コマ、節水便器
- ◆非再生性資源の使用量の削減
 - OAフロアなどにリサイクル建材を使用
- ◆汚染物質含有材料の使用の回避
 - 接着剤・ワックス・防腐剤などに配慮
 - 不活性ガス消火
 - HCFCの発泡断熱材
 - HFC冷媒

■LR-3 敷地外環境

- ◆地球温暖化への配慮
 - 設備システムの省エネで、LCCO₂=92%
 - スコア=3.3
- ◆地域環境への配慮
 - 透水性舗装
 - 省エネによる排熱削減(更なる他の配慮が必要)
 - 大気汚染防止法に対応
 - 駐車場の確保
 - 雨水排水抑制、下水道法の遵法
 - ゴミストックヤードの配置に対する配慮
- ◆周辺環境への配慮
 - 騒音・振動に対する遵法
 - 風害を発生しない建物形状
 - 日照障害に対する遵法
 - 照明・広告塔・外壁反射光に対する配慮

■Q-3 室外環境(敷地内)

- ◆生物環境の保全と創出
 - 外構の緑化(小規模)or 屋上緑化(小規模) (更なる他の配慮が必要) ※1 (7)
- ◆まちなみ景観への配慮
 - 周辺環境に応じた建物配置・高さ・形状に対する一定の工夫 ※1
- ◆地域性・アメニティへの配慮
 - 地域への空間提供(小規模)、防犯への配慮
 - 排熱に対する配慮 (更なる他の配慮が必要) ※1 (8)
 - (1)

※1 関連する取り組みの数と規模でレベルが定まる

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	B+ランク		階数	地上8F
建設地	0		構造	RC造
用途地域	0		平均居住人員	0人
気候区分			年間使用時間	0時間/年
建物用途	事務所		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2010年1月	0.0	評価の実施日	
敷地面積	0 m ²		作成者	
建築面積	0 m ²		確認日	
延床面積	10,000 m ²		確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	92%
③上記+②以外のオンサイト手法	92%
④上記+オフサイト手法	92%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。	その他 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE-新築(簡易版)/2010

Aランクの建物例

(Sq=3.1,SLR=3.5,BEE=1.5)

- ・赤文字がレベル5
- ・緑文字がレベル4
- ・青文字がレベル3

©masaaki@kajima.com

■Q-1 室内環境

- ◆音環境
 - サッシ遮音性能(T-1)、内壁遮音性能(Dr-35)
 - 吸音 床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板
- ◆温熱環境
 - 高外皮性能
 - 窓システム:SC=0.35、U=3.5W/m²K程度、外壁:U=1.5W/m²K程度
 - 熱吸ガラス+簡易エアフロー程度
 - 彫りの深いファサード(500°程度)による庇効果など
 - 外壁の断熱(ウレタンフォーム15mm相当)
 - ペリメータ方位別・インテリア別の空調ゾーニング
- ◆光・視環境
 - ブライトによる眩しさ防止
 - 最大750Lxまで照度UP可能
 - 中程度の照明点滅区分
- ◆空気質環境
 - 外気と排気のショートカット防止
 - CO₂の監視(巡回計測)
 - +管理マニュアル
 - 喫煙ブースによる分煙(十分な取組)

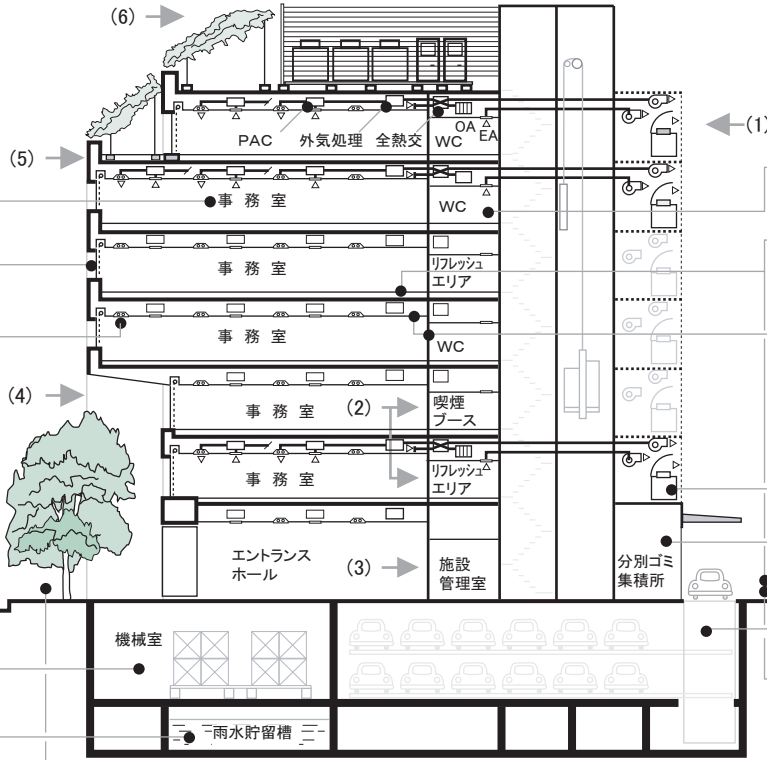
■Q-2 サービス性能

- ◆機能性
 - OA70A設置、OA容量40VA/m²以上
 - 天井高2.5m以上
 - 喫煙コーナーと分離したリフレッシュコーナー
 - 色彩計画とインテリア計画への十分な配慮
 - 維持管理に配慮した仕様と機能
- ◆耐用性・信頼性
 - アルミCWによる外装の高耐久化
 - タイルカーペット、システム天井などによる保全性の向上
- ◆信頼性
 - 衛生設備:節水・非常時の雨水利用
 - 電気設備:浸水対策
 - 通信・情報設備:通信手段の多様化、浸水対策
- ◆対応性・更新性
 - 階高:3.5m以上
 - 電気設備、通信・情報設備
 - ES・OA70A・システム天井で容易に対応可能

■LR-1 エネルギー

- ◆建物の熱負荷抑制
 - 外皮性能:PAL15%以上削減
- ◆設備システムの高効率化
 - エネルギー削減率12.8
 - スコア=3.7
- ◆効率的運用
 - 用途別のエネルギー計測・記録
 - 運用・維持の基本方針の設定

- ◇空調設備の省エネルギー
- ◇換気設備の省エネルギー
- ◇照明設備の省エネルギー
- ◇給湯設備の省エネルギー
- ◇昇降機設備の省エネルギー
- ・高効率機器の採用・全熱交換器・冷媒管長さの最小化
- ・高効率モーターの利用・各階個別換気・温度制御
- ・高効率照明器具(Hf型蛍光灯)・昼光利用制御・適正照度補正制御
- ・個別給湯方式・適切な断熱
- ・VVVF・電力回生制御



■Q-3 室外環境(敷地内)

- ◆生物環境の保全と創出
 - 外構・屋上緑化(小規模)、地域の樹種に配慮 ※1
- ◆まちなみ景観への配慮
 - 周辺環境に応じた建物配置・高さ・形状
 - に対する一定の工夫(取組小) ※1
- ◆地域性・アメニティへの配慮
 - 地域への空間提供(小規模)、防犯への配慮
 - 外部の通風、緑化、排熱への配慮 ※1

■LR-2 資源・マテリアル

- ◆水資源保護
 - 節水コマ、節水便器・雨水利用
- ◆非再生性資源の使用量の削減
 - OA70A・外構タイルなどなどにリサイクル建材を使用
 - 持続可能な森林木材の利用(10%未満)
- ◆汚染物質含有材料の使用の回避
 - 接着剤・ワックス・防腐剤・などに配慮、
 - サッシシールのガスケット化
 - ODP=0の発泡断熱材
 - 新ガス消火
 - HFC冷媒

■LR-3 敷地外環境

- ◆地球温暖化への配慮
 - PAL・ERRの向上で、LCCO₂=88%
 - スコア=3.4
- ◆地域環境への配慮
 - ヒートアイランドに対する詳細調査+シミュレーション
 - 雨水排水抑制、下水道法の遵法
 - 駐車場+自転車置き場の整備
 - ごみ分別回収への配慮+減容化計画
- ◆周辺環境への配慮
 - 騒音・振動に対する遵法
 - 風害対策
 - 日照障害に対する遵法
 - 照明・広告塔・外壁反射光に対する配慮 ※1

※1 関連する取り組みの数と規模でレベルが定まる

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	Aランク		階数	地上8F
建設地	0		構造	RC造
用途地域	0		平均居住人員	0人
気候区分			年間使用時間	0時間/年
建物用途	事務所		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2010年1月	0.0	評価の実施日	
敷地面積	0 m ²		作成者	
建築面積	0 m ²		確認日	
延床面積	10,000 m ²		確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。		注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE-新築(簡易版)/2010

Sランクの建物例

(Sq=3.8,SLR=4.0,BEE=3.0)

- ・赤文字がレベル5
- ・緑文字がレベル4
- ・青文字がレベル3

©masaaki@kajima.com

■Q-1 室内環境

◆音環境

- サッシ遮音性能(T-1)、内壁遮音性能(Dr-35)
- 吸音床・タイルカーペット、天井:岩綿吸音板

◆温熱環境

- 高外皮性能
 - 窓システム:SC=0.2、U=2.0W/m²K程度、外壁:U=1.0W/m²K程度
 - Low-E複層ガラス+明色ブラインド+深いファサード(500°程度)+ライトシェルフ
 - 外壁の断熱(ウレタンフォーム20mm相当)
- ゾーン別の冷暖房の選択可能
- 上下温度差の少ない空調方式(床吹出)

◆光・視環境

- 昼光率1.5%以上
- ライトシェルフによる昼光利用
- 庇・ブラインドによる眩しき防止
- 最大750Lxまで照度UP可能
- 中程度の照明点滅区分

◆空気質環境

- F☆☆☆☆建材を70%以上利用
- 外気量=基準×1.2倍以上
- 自然換気有効開口面積 50cm²/m²
- 外気と排気のショートカット防止
- 中央からのCO₂濃度監視
- 喫煙ブースによる分煙(十分)

■Q-2 サービス性能

◆機能性

- OAフロア設置、OA容量50VA/m²以上、プレワイリング
- ハートビル法利用円滑化基準を満足
- 天井高 2.7m以上
- 喫煙コーナーと分離したリフレッシュコーナー+自動販売機
- 色彩計画とインテリア計画への十分な配慮
- 維持管理に配慮した仕様と機能

◆耐用性・信頼性

- 耐震強度+25%
- アルミCW・ガラスCWによる外装の高耐久化
- タイルカーペット、システム天井などによる保全性の向上
- 衛生設備:節水・非常時の雨水利用
- 電気設備:浸水対策
- 耐震Aクラスに対応した機械・配管支持
- 通信・情報設備:通信手段の多様化、浸水対策

◆対応性・更新性

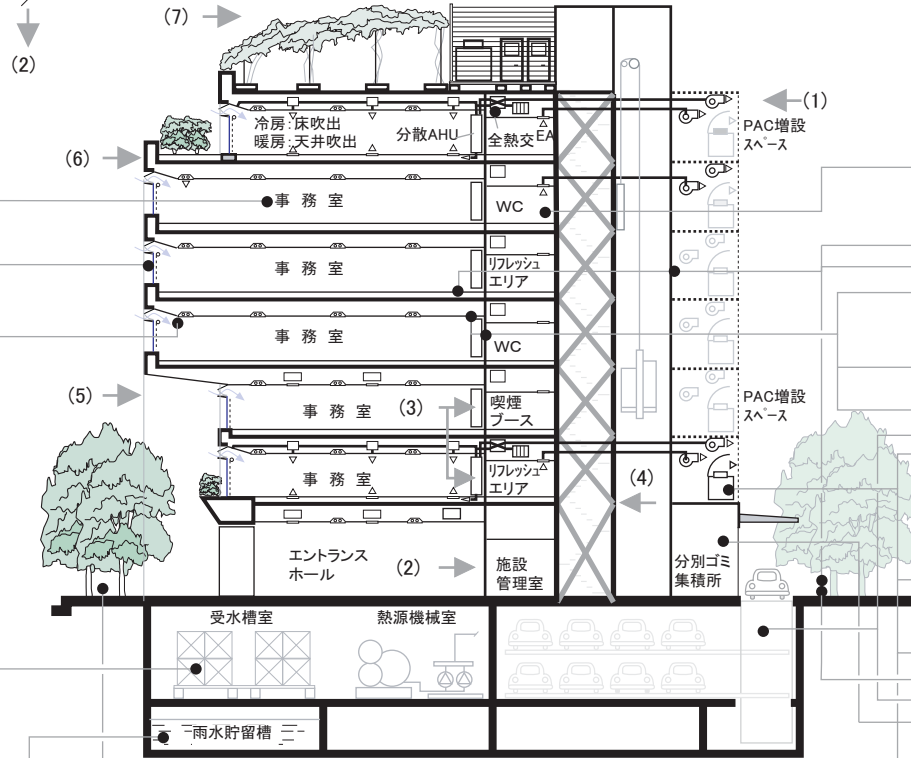
- 階高:3.7m以上
- 電気設備、通信・情報設備
- ES・OAフロア・システム天井で容易に対応可能
- バックアップ設備のためのスペースを確保

■LR-1 エネルギー

- ◆建物の熱負荷抑制
 - 外皮性能:PAL35%以上削減
 - 昼光利用・自然換気(小規模)
- ◆設備システムの高効率化
 - エネルギー削減率24.5%
 - スコア=4.4
- ◆効率的運用
 - 用途別のエネルギー計測・記録
 - 運用・維持の基本方針の設定

- ◇空調設備の省エネルギー
- ◇換気設備の省エネルギー
- ◇照明設備の省エネルギー
- ◇給湯設備の省エネルギー
- ◇昇降機設備の省エネルギー

- ・高効率熱源の採用・外気量制御・全熱交換器・VAV・VWV・大温度差搬送 etc.
- ・高効率モーターの利用・各階個別換気・温度制御
- ・高効率照明器具(Hf型蛍光灯)・昼光利用制御・在室感知制御 etc.
- ・個別給湯方式・適切な断熱
- ・VVVF・電力回生制御



■LR-2 資源・マテリアル

- ◆水資源保護
 - 節水コマ、節水便器・雨水利用
- ◆非再生性資源の使用量の削減
 - 高炉セメントの活用
 - OAフロア・外構タイル・外構ブロックなどにリサイクル建材
 - 持続可能な森林木材の利用(10%以上)
- ◆汚染物質含有材料の使用の回避
 - 接着剤・ワックス・防腐剤などに配慮、サッシシールのガスケット化
 - CO₂発泡断熱材
 - 新ガス消火
 - HFC冷媒

■LR-3 敷地外環境

- ◆地球温暖化への配慮
 - PAL・ERRの向上で、LCCO₂=78%
- ◆地域環境への配慮
 - 詳細調査・シミュレーション・省エネ・通風
 - 雨水排水抑制、下水道法の遵法
 - 駐車場+自転車置き場の整備
 - ごみ分別回収への配慮+減容化計画
- ◆周辺環境への配慮
 - 騒音・振動に対する遵法
 - 風害対策
 - 日照障害に対する遵法
 - 広告物照明に対する配慮、光害対策ガイドラインの一部対応

■Q-3 室外環境(敷地内)

- ◆生物環境の保全と創出
 - 外構の緑化(中規模)、屋上緑化(大規模) ※1
- ◆まちなみ景観への配慮
 - 周辺環境に応じた建物配置・高さ・形状に対する一定の工夫(取組大)
 - (周辺環境に応じた外構・公開空地の工夫など) ※1
- ◆地域性・アメニティへの配慮
 - 地域への空間提供(小規模)、防犯への配慮
 - 敷地の一部を公開空地として提供
 - 外部の通風、緑化(大規模)、排熱への配慮 ※1

※1 関連する取り組みの数と規模でレベルが定まる

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	Sランク	階数	地上8F	
建設地	0	構造	RC造	
用途地域	0	平均居住人員	0 人	
気候区分		年間使用時間	0 時間/年	
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2010年1月 0.0	評価の実施日		
敷地面積	0 m ²	作成者		
建築面積	0 m ²	確認日		
延床面積	10,000 m ²	確認者		

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 78%

③上記+②以外のオンサイト手法: 78%

④上記+オフサイト手法: 78%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 4.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 4.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。	その他 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい